



本学大学院は昭和53（1978）年に開学し、平成30（2018）年の今年で40周年を迎えました。10月14日に神戸ポートピアホテルにおいて開催さ

兵庫教育大学 副学長 須田 康之

子どもの学びに焦点を あてた教育研究の必要性

れた四十周年記念式典は、各方面から多くの方にご臨席を賜り盛大にしかも厳肅な雰囲気の中かで迎えることができました。同窓会会員の皆様には多くのご支援を賜りましたことお礼申し上げます。

さて、10月のはじめに日本教育大学協会関連の会合が東京であり、予定していた帰りの新幹線までに時間があつたため、国立公文書館に立ち寄ってみました。ここには、明治期からの行政文書が保管されており、1971年以降の各省庁で保存期間が過ぎた重要な文書を閲覧できるようになっていま



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

教育に関わる最古の歌の地

「小目野」に立つわが母校

第43号

平成31年（2019年）3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

す。兵庫教育大学にかかわる文書がなかなか検索してみたところ、昭和51年1月5日付で、谷口澄夫初代学長が、当時の谷垣専一文部大臣に提出した本学大学院設置にあつての申請書を見つけることができました。「本学大学院は、広い視野に立つて清深な学識を修め、学校教育に関する理論と方法の研究能力及び教育実践の場における教育・研究の推進者となる能力を養うとともに教育に携わる者の専門職としての研究・研鑽の熱意に応え、その研究の場を提供することを目的とする」。設立当初からの本学のミッションである「現職教員に対する高度な専門性と実践的指導力の育成」ならびに「教師教育のトップランナー」というビジョンは、40年経った今も、確実に受け継がれていることがわかります。

「教育に携わる者の専門職としての研究・研鑽の熱意に応え、その研究の場を提供する」とあります。このことについて、少し私見を述べてみたいと思います。今後、各教科教育のコースは教職大学院へと移行していくこととなり、教科を指導するうえで共通に必要なとされる能力を向上させることが求められます。指導能力には当然、教育理念や目標・内容にかかわるカリキュラムマネジメントやどう教えるかという授業の展開や方法にかかわる技能の習熟が入ります。加えて、子どもがど

のように学んでいるのかについての検討を疎かにできません。これまで教育研究においてはカリキュラムや教授法についての研究はなされてきましたが、子どもが授業のなかで何をどのように学んでいるかの研究については、あまり注目されてきませんでした。しかし、平成29年3月に告示された学習指導要領の改訂において、「主体的・対話的で深い学び」が求められるようになり大きく状況は変わりました。この背景には、学習科学の発展によつて、子どもの学びに焦点が当てられるようになったことがあります。あるいは、教えることと学ぶことは重なり合うことはあつても、決して同じではないこと。もつと端的に言えば、子どもは教師が教えるように学ばないことへの認識があるといつてもよいかもしれません。実際のところ、授業において子どもはどのように学んでいるのか、子どもの学びの世界を捉え、そこに教師がどのようにかわれば学びの世界が深まるのかを検証し、そのうえで教師は何をすべきかが問われているといえるでしょう。教授行為と学習主体との連関を捉え、「主体的・対話的で深い学び」を可能にするような教育研究が期待されているところです。本学大学院で、子どもの学びに焦点をあてた理論と実践の往還がなされることを切に望みます。

ブロック活動の紹介(10) (通算)

― 東中国・四国ブロック ―

鳥取大会実行委員長(鳥取県支部代表)

鷺 見 寛 幸



平成30年8月4日(土)・5日(日)に、兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究会鳥取大会を

国立公園大山の麓、米子市において盛大に行うことができましたことに感謝申し上げます。これはひとえに、北は岩手県から南は佐賀県まで90名の参加者の皆様、東中国・四国ブロックの皆様の陰です。本当にありがとうございました。

当初、鳥取県は同窓会全国大会開催の経験が無く、開催できるのか不安でした。しかし、それまでの東中国・四国ブロックの取組が力となり開催に至ったと思います。その取組みとはブロック研修会です。平成25年に第一回東中国・四国ブロック研修会が愛媛県で開催され、平成26年は岡山県で開催されました。現在のところブロック研修会は愛媛県、岡山県、鳥取県の3県で行っていますので、平成27年は鳥取県で開催しました。

第三回東中国・四国ブロック研修会(平成27年11月28日)鳥取市白兎会館

研修内容は、石浦関の父親である鳥取城北高等学校の石浦外喜義校長より講演

「相撲道への道と選手育成」と照ノ富士逸ノ城を輩出した城北高等学校の相撲稽古の見学。大学からは日渡円教授、同窓会からは船本秀忠氏にも参加いただき、愛媛県と岡山県のサポートを受けて開催できたことが力になったと思います。また、鳥取県支部は昭和57年より支部研修会を行っています。内容は大学院2回生の研究発表と懇親会ですが、毎年1月に開催することで、幅広い年代の同窓生とのつながりが深くなっていたことも力になったと思います。

東中国・四国ブロック会議(平成30年3月24日)ANAクラウンプラザホテル米子
鳥取大会開催に向け、平成29年度からは毎月1回、約20名の実行委員で準備会を行いました。そして、平成30年3月には「東中国・四国ブロック会議」を行いました。同窓会全国大会を経験されている川村庸子同窓会長、清田公典ブロック長、佐々木勇専門部長(岡山県)からの助言は大変参考になるものでした。また、会場の下見も出来、詳細にわたって打ち合わせをすることができました。

同窓会全国大会を終えて感じたことは、支部の繋がりが大切ですが、ブロックの繋がりとブロック活動の重要性です。全国大会を行ったことで鳥取県支部及びブロックの同窓生の絆が強まったと思います。今後もその力を大切にしていきたいと思っています。

ブロック活動の紹介(11) (通算)

― 西中国ブロック ―

西中国副ブロック長(広島県支部代表)

津 田 和 也



皆様ご承知のように本年度日本列島は地震、台風豪雨等による甚大な被害が

次々と発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。広島県においても「平成30年7月豪雨」により、多くの尊い命が奪われ、住宅の浸水、倒壊など多大な被害に見舞われました。幸いにも間一髪で移動されていて人災には至らなかったものの、土砂で母屋が全壊するという被害に遭われた会員もいらっしゃいました。こうした中、遠方からはるばる同窓会会長の川村庸子様、副会長の船本秀忠様と山本紀代様に来広いただき、温かいお言葉と義援金を賜りました。支部を代表して心より感謝申し上げます。

さて、西中国ブロックは、島根県、山口県、広島県の三県で構成されており、広報部を担当しています。平成13年から4年間は広島県が、平成17年からは山口県で7年間、そして平成25年度から現在まで島根県が主担当として会報の編集に

あたってきました。同窓会活動の重点であるブロック活動の活性化が謳われ、これまで各ブロックの活動を本会報にて紹介してきました。停滞していた活動を同窓会総会及び研究大会の開催をブロックで受けて連携を強め、大会後も活動が継続しているなど、活性化してきた様子の報告がなされてきました。この度、西中国ブロックの特色及び実践等の活動について執筆するにあたり、正直困ってしまっただけというのが率直な思いです。というのも、ブロックとして特色あるこれといった活動を行っていないというのが実情であるからです。三県とも、支部単独で活動を継続しており平成3年度と15年度は島根県支部で、同13年度と同19年度には広島県支部で、また同16年度と同26年度には山口県支部において同窓会総会並びに研究大会を開催県支部単独で主管して開催にあたってきました。現在、島根県支部において活動の再構築中のため、広島県支部及び山口県支部で開催する支部研究会の案内をして互いに参加し合うことにしています。平成31年度からは広報の担当が島根県から広島県へと引き継がれることとなります。広報担当としての連携を今後も継続しながら、これまで報告のあった各支部活動を参考に活性化に向けた取組みを検討して参ります。

第38回 兵庫教育大学大学院

同窓会総会・研究大会「鳥取大会」

標記の大会が、平成30年8月4日(土) 5日(日)の両日、鳥取県米子市で開催されました。全国各地より大学関係者や同窓生、一般参加者を合わせて90名が参加し、東中国・四国ブロック六県がブロック・支部活動の力を結集して行われ、とても有意義な大会となりました。本大会開催にあたり、事前の周到な準備から、当日のきめ細やかな運営全般に至るまでご尽力賜りました驚見寛幸大会実行委員長を始め、ブロック各支部から集われた委員の皆様に対し、衷心より厚くお礼申し上げます。有難うございました。

「学長挨拶」

兵庫教育大学長

福田 光 完



本日は、第38回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会が、この鳥取県米子の地で開催されますことをお慶び申し上げます。

本大会に向けて鳥取県同窓会の皆様を中心に、中国・四国ブロックの皆様方のご協力を受けながら開催に結びつけられたと聞いております。6月末に思いもかけない自然災害がございましたが、その中にあって皆様方がご協力されたことに感動しております。本当に、ご苦労さまでございました。

私は、今週台湾出張しております。南は暑いだろうとおもいましたが、高雄で32・3度、台北に上がると35度。これが昨日の東京では38度くらいです。北に行くほど暑くなる。こういう、異常気象を私も体験したところです。

さて、先日、企業が求める若者像について扱ったテレビ番組がありました。その中で、企業が求める力の第一がコミュニケーション力で、圧倒的にどの企業もそれを求めています。また、日本のグローバル企業の海外の営業所のCEOは、ほとんどが外

国人だということを日産自動車の方からお聞きしました。そういう、グローバル企業にとつてのコミュニケーション力は英語等を駆使してスバズバ意見を言うという話になると思います。

皆さんは、教員に求められるものは何とお考えでしょう。企業と同じようにコミュニケーション力だと言われる方は多いでしょうが、それが具体的に何を示すのかを考えます。教員の場合は子ども、同僚の先生、それと管理職とのコミュニケーション力、その三つが揃わないと満足がいけないのではないかと思います。それを面接等でどう見るのかといったときに、子どもとのコミュニケーションをその場で見ることはできません。そうすると大学や大学院の中で多くの実践をやつてその姿勢を見ていく、これが教職大学院の発想になるのではないのでしょうか。新人の教員も学部だけではなく教職大学院にも、というストーリーになるのではないかと改めて納得している次第です。

また一方で、一般企業ですと約3年の間に新入社員の3割が離職すると言われます。これは我々のように昭和の時代に生きた人間には理解しにくいのですが、先生には向いて半面程で、時には1、2カ月で私には向いていません、あるいは保護者にちよつとやり込められて、やめさせていただきますとこうくるんです。この状況を我々の世代はもっともつと深刻に受けとめて、そうなのかという議論をするためにいけないと思う次第でございます。

講話と言うことではございませんが、最近感じたことをお話ししました。どうもありがとうございます。

大山町発!

鳥取県西部教育圏構想プラン

「広域小規模特認校」

制度の導入に向けて」

発表者

教育実践高度化専攻

学校経営コース第37期

加藤 智 史



同窓会では、少子高齢化が進む鳥取県西部地区の公立小学校において、地域の強みを生かした

特色ある教育を展開することにより、子育て世帯を都会から呼び戻し、地域を発展させようとする研究を提案という形で発表させて頂いた。

少子高齢化が進む地域の公立小学校は、統廃合が進められ、平成19年からの10年間に全国で2626校減少した。今後も少子高齢化は、地方から益々進んでいくことが予想される。このような状況が地方にもたらす影響について、「過疎地域に在る小中学校がなくなることは、子育て世代の人口流出などを招き、その学校がある地域の衰退につながる。(中村・瀬戸2017)」と指摘する研究者もいる。

そこで、少子高齢化に起因する教育的課題を解決できる地域教育や小学校の在り方について研究を進め、在院中に現任校であった大山町立大山小学校の発展プランを作成した。学校発展プランは、3点の提案から構成されている①地域の学

に広える教育プログラムの設定、③地域を守る教育的投資の三点である。

地域を存続させる仕組みとして提案したいのが、広域小規模特認校制度の導入である。小規模特認校制度とは、学校選択制の一形態である。最大の特徴は、校区外から児童を受け入れ、児童数を適切な数に調整する機能があることである。他にも多くのメリットがあり、現在の教育課題の解決に有効な制度である。小規模特認校に関しては、立命館大学大学院の久保富三夫教授の研究を参考にさせて頂き、制度を導入している鳥取市や他地域と鳥取県西部地区とを比較して、大山町における制度導入、運用に関する条件について提案した。

様々なニーズに広える教育プログラムの設定では、小学校・中学校を通しての地域教育の実施、様々な教科、領域での地域教材の活用、英語教育・プログラミング教育を包括する新たな地域学習の模索の3点を提案した。

地域を守る教育的投資では、制度やシステムを活かすために、人と人、人としてくみなどをつなげるマンパワーの投入が必要であると提案した。具体的には、地域教育コーディネーターに必要な資質や技能、学校運営協議会の機能を強化する組織の結成について提案した。

本会の発表のベースは、大学院で作成した学校発展プランがベースとなっており、在院中に熱心に指導して下さった川上泰彦先生を始め、兵庫教育大学大学院学校経営コースの諸先生方に心から感謝したい。また、このような晴れの舞台で発表できたことは、大変光栄であり、驚見寛幸実行委員長はじめ、関係者の方々に心から感謝したい。

記念講演

「小さくても勝てる」

「砂丘の国」の
ポジティブ戦略

鳥取県知事

平井 伸治



砂丘が鳥取のシンボルのように言われます。今、砂丘と呼んできますけれど、これはもともと

と有島武郎の歌によるものなんです。「浜坂の遠き砂丘の中にして さびしき我を見いでけるかな」というものがあります。有島武郎がこを歩かれた後、1ヶ月後に亡くなっています。そのことでこちらのことも取り上げられて、「鳥取は砂丘だ。」ということになりました。

鳥取県では、「米子鬼太郎空港」と「鳥取砂丘コナン空港」という漫画の名前を冠した空港があります。なんで2つもマンガの空港ができたかという疑問をお持ちの方が多いと思います。実は水木しげる先生は地元でも大人気でして、大変な貢献をさせていただいています。地元で米子空港を米子鬼太郎空港に変えていかというアンケートをとったところ8割の方が賛成したので変えることにしたのですが、著作権の問題が非常に難しいことがわかりました。調布の先生のアトリエに参りまして、お願いしましたら、先生が「い

んじやないですか。」と言われました。しめたと思いい、早速変えました。先生はオープニングに来てくださいました。マスコミの前に立たれまして、たくさんマイクを向けられました。「どうですか？鬼太郎空港になった感想は？」に、先生は非常にユーモアにあふれる方でしたから、「鳥取県もおもしろいことを考えますよね。大体、この世の中に妖怪なんていないんですから。」とおっしゃいました。

その後、青山剛昌先生というコナンの作者が、この空港に降り立たれました。そのとき、青山先生とお会いすることがあったのですが、不機嫌な顔で、「鬼太郎だけ、ずるい。」と言われました。「空港は2つあるので、じゃあもう一つをコナンにしますか？」と言いましたら、「いい、いいよ。」「でも著作権で小学館がやかましいんじゃないですか？」「それは俺が何とかするから大丈夫。」「本当にできちゃったんですね。それでコナン空港（鳥取砂丘コナン空港）になったんです。世界中でコナンは結構人気があります。中国でもファンが多いんです。中国のインターネットで話題になりまして、ツイッターで出てきたものにこんなのがありました。「鳥取は、コナン空港にして大丈夫か？毎週、殺人事件が起きるんじゃないか。」「毎週、解決しているから大丈夫だ。」「結構楽しめました。」「瓜食めば子ども思ほゆ栗食めばまして惚はゆ いづくより来りしものそ目交にもとなかりて安眠しなさぬ銀も金も玉も何せむに優れる宝子にしかめやも」山上憶良の有名な万葉集の歌です。実は山上憶良はここ伯耆国の

国司を務めていました。ですからこちらに滞在していましたし、大切な家族もいました。子どもは宝だと言っていますが、これが私たちのいわばモットーになっています。人口が一番少ない県だから子どもたちの未来は私たちの未来であると、そのように考えています。この世の中に生まれた大切な命、それを育てるのが私たちの世代の務めではないかということです。

子育てについてですが、日本一の子育て王国ということで、人口当たりの医者さんの数が多いこととか、待機児童の数は一人もいないとか、そのようなことをずっと続けています。教育改革ということで、例えば中山間地では、保育料の無償化を行っています。なんでそんなことができるんだということになりますが、答えは簡単で、子どもの数が少ないからです。地元にとつてみれば、お年寄りばかりになった集落に、そこに若い1世代が住むようになると雰囲気ガラリと変わるんですね。安心安全だったり、地域の活力になったり。

県では、教育委員会と知事部局と一体となった教育振興協約や教育協議会を行ってきましたが、これが改正された地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、国としてまったくそっくりの制度を取り入れることになりました。こんなことを当初から始めていて、できるだけ地域にコミットしていくということを考えていました。また、少人数学級を24年度から全学年で実施をしております。

アメリカのスタンフォード大学でカリキュラムを作ってもらって、Sta

nford e-Totториというプログラムで、ICTで講義を行って、もらって、掲示板に質問をする、テレビ会議方式でセッションを行うということを始めました。やっぱり意欲のある子どもたちが食いついてきました。地域それぞれでいろんな教育があり、やっぱりふるさとで育ったという思い出をつくってもらいたいと思っています。サーフィンの授業を行っている学校があります。指導者は地元のサーフィン教室の人たちです。学校の先生が全てをやらなくてもいいんですよ。そういうことを分かち合いながら教育をしていくというスタイルです。

鳥取は、星がきれいということで、星空保全条例をつくりました。都道府県で初の条例なんです。夜の星空を壊さないように、レーザー光線を照射するのを禁止したり、特に星空がきれいに見えるところは地域を指定して街灯を下向きにしたりするように規制を強化しています。星取り県、こういう環境教育を今やっておりまして、この望遠鏡を県から貸し出して、勉強に使っていただくようにしています。各地で星空教育がうまれてきました。

教育とは多分、教科書に書いてあるものばかりではなくて、私たちの自然の中に、あるいはふるさとの中、社会の中にあると思います。そこで見つけたものが、子どもたちにとって一生の財産になると思っています。このような特徴ある教育をやりながら子どもたちを育てたい、こういう小さな県ですが、頑張っているところです。

平成30年度 教育実践研究活動等に係る受賞者

(五十音順・敬称略)

	氏 名	教育実践研究活動等の内容	専攻・コース・期
奨励賞	い い なおあき 伊井 直明 (兵庫県)	教育現場や教育行政、在外教育施設での豊富な経験を踏まえ、海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育、人権教育を中心に研究論文や提言等を多数執筆し、顕著な実績を上げている。また、同窓会活動の発展にも尽力している。	学校教育専攻 教育基礎コース 4期
	お がわ ゆう た 小川 雄太 (兵庫県)	教育実践研究論文「公民科『現代社会』において社会認識の深化を目指したNIEの実践」公民科「現代社会」において社会認識の深化を企図したNIEワークシートを作成し、その効果について実践的な研究を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース 36期
	か わい のぶゆき 河合 信之 (兵庫県)	教育実践研究論文「科学的概念への変換を促す質問紙による教授・学習法－『光の進み方』を事例として－」光の進み方の認識に焦点を当て、科学的概念の理解・定着・活用を図るための質問紙を考案し、教授・学習法の研究を実践的に深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース 34期
	つ だ なお こ 津田 直子 (大阪府)	教育現場での実践経験を踏まえ、大学院修了後更に研究を深め博士(臨床教育学)の学位を取得された。臨床教育学を専門領域に単著二編を執筆し、また心理カウンセラーとして教育相談活動に携わるなど教育への貢献は大きい。	学校教育専攻 生徒指導コース 17期
	まつ だ まさよ 松田 雅代 (大阪府)	教育実践研究論文「小学校教師の理科授業の力量形成に関する一考察－概念変容理解を通じた調査事例から－」理科を専門としない教職経験10年以下の小学校教師を対象とした教師の力量形成に関し、概念変容を促す授業の実践的研究を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース 35期
	み たに ゆう じ 三谷 祐児 (鳥取県)	長年にわたり国語科(作文教育)について研究を深め「百マス作文」を考案し実践に取り組む。また、学校管理職として午前授業5時間制の導入を行うなど特色ある学校づくりや教育の充実、教職員の働き方改革に成果を上げている。	教科・領域教育専攻 言語系コース 15期
	なか よしひさ 中 佳久 (和歌山県)	教育実践研究論文「乳幼児期の子どもの教育相談の取り組みに関する研究－見え方を中心に－」乳幼児期の子どもの見え方についての教育相談事例を統計的に分析し、具体的な事例を含めその対応について考察を深め、教育実践研究活動の向上に貢献した。	障害児教育専攻 19期
奨励賞	お がわ けい こ 小川 圭子 (大阪府)		幼児教育専攻 18期

西日本豪雨被災地の方々への
義援金及び目録贈呈式を行いました

平成30年7月、西日本を襲った豪雨で被災され、国の激甚災害にも指定された広島県、岡山県、愛媛県の3県に、本学同窓会より義援金及び目録を贈呈しました。

9月18日(火)に会を代表して、川村会長、船本・山本両副会長がまず、愛媛県大洲市平公民館で、大洲市教育委員会、宇和島市教育委員会宛に義援金を贈呈しました。目録及び義援金は会を代表して、池田様に贈呈しました。



その後、広島県福山市で、同窓会元会長の山下様、広島県支部代表の津田様ご出席のもと贈呈式を行いました。義援金は、熊野町教育委員会教育長宛となりました。

引き続き岡山県倉敷市菅生小学校を訪れ、岡山県支部代表の千葉様ご出席のもと、贈呈式を行いました。義援金は、県教育委員会教育長宛となりました。

同窓会としてとても意義ある活動ができたと思います。

兵庫教育大学創立40周年
記念式典・記念講演会の開催について

新構想の教員養成大学院として、昭和53年に社町下久米の嬉野台に開学した兵庫教育大学は、平成30年10月をもって創立40周年を迎えました。創立40周年を機に、更なる飛躍を期するため、10月14日(日)、神戸ポートピアホテルにおいて、標記の式典並びに講演会を挙行了しました。



同窓吹奏楽部の演奏で幕を開けた式典には、洲上孝文科学省国立大学法人支援課長、井戸敏三兵庫県知事、他、教育委員会・大学・学校関係者等約160名の来賓を迎えました。福田光完学長の式辞、柴山昌彦文部科学大臣(洲上課長代読)及び井戸敏三兵庫県知事からの祝辞の後、名須川理事・副学長から本学の40年のあゆみについて開学当時の記録映像の上映とともに報告されました。

記念講演会では、東京大学大学院情報学環特任教授の片田敏孝氏による「地域と連携した防災教育が子供を変える地域を変える」と題した講演が行われました。

また、その後に行われた祝賀会では、本学OBの藤本百男兵庫県議会議員による乾杯の後、来賓からのスピーチをいただき、約120名の参加者が和やかに懇談しました。

これを機に、本学はこれからも我が国の教員養成の新たな展開をめざす先導的な取組を実践し、教師教育のトップランナーとして、更なる発展・飛躍に向けて走り続けます。

兵庫教育大学大学院同窓会第36期会計決算報告書

(自 平成29年6月1日～至 平成30年5月31日)

(収入の部)					
科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要	
会 費	3,900,000	4,167,964	267,964		
繰 越 金	4,993,497	4,993,497	0		
雑 収 入	503	3,118	2,615		
合 計	8,894,000	9,164,579	270,579		
(支出の部)					
款	項 目		予算額	決算額	増 減
総 務 部	役員会費	旅 費	1,102,000	1,036,008	65,992
		需用費	1,100,000	1,035,360	64,640
	事務費	通信費	2,000	648	1,352
		旅 費	0	0	0
		会議費	0	0	0
会 計 部	事務費	需用費	26,000	11,864	14,136
		通信費	7,000	1,318	5,682
		旅 費	10,000	10,546	△ 546
	総務費	旅 費	9,000	0	9,000
		会議費	0	0	0
研 究 部	印刷製本費	実践研究誌	88,000	87,109	891
		需用費	0	17,325	△ 17,325
		通信費	35,000	27,330	7,670
	事務費	旅 費	20,000	21,152	△ 1,152
		会議費	23,000	12,000	11,000
広 報 部	会報印刷費	印刷費	10,000	9,302	698
		需用費	255,000	251,170	3,830
		通信費	250,000	250,128	△ 128
	事務費	旅 費	500	0	500
		会議費	2,500	1,042	1,458

組 織 部	活動推進費	ブロック活動経費	405,000	182,450	222,550
		支部活動助成金	200,000	90,000	110,000
	事 務 費	需用費	0	0	0
		通信費	5,000	0	5,000
		旅 費	0	0	0
事務局費	渉外費	会議費	0	0	0
		出張旅費等	350,000	242,035	107,965
		冊子印刷費	50,000	9,840	40,160
		旅 費	100,000	112,320	△ 12,320
	事 務 費	需用費	0	0	0
		通信費	150,000	101,785	48,215
		旅 費	0	0	0
		会議費	50,000	18,090	31,910
	総会運営費	運営費	500,000	500,000	0
		運営費	100,000	100,000	0
小 計	寄付金「兵庫教育大学大学院同窓会研究助成金」		1,000,000	1,000,000	
			3,826,000	3,410,636	415,364
予 備 費			5,068,000	380,000	4,688,000
	繰越金他		5,068,000	380,000	4,688,000
合 計			8,894,000	3,790,636	5,103,364

収入決算合計 9,164,579 円 支出決算合計 3,790,636 円 差引 5,373,943 円
差引残高の 5,373,943 円は、第 37 期会計の収入（繰越金）に充てます。

兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金は、次のとおりです。
定額貯金 10,190,000 円 平成 29 年 6 月 5 日預入（定額貯金 10 年満期）

以上報告いたします。
平成 30 年 5 月 31 日

兵庫教育大学大学院同窓会 会長 川村 庸子
同 会計部長 佐々木 勇

監 査 報 告

上記の第 36 期会計決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果、正確であることを認めます。
平成 30 年 5 月 31 日

兵庫教育大学大学院同窓会 監事長 北山 鎮道
同 監事 田中 嘉明
同 監事 中園大三郎
同 監事 早川 求

第38回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会〔鳥取大会〕



第38回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会〔鳥取大会〕平成30年8月4日 於ANAクラウンプラザホテル米子



▲情報交換会



▲巡検「米子駅集合写真」



▲巡検「鬼太郎の町を訪ねるコース」(米子駅)



▲巡検「鬼太郎の町を訪ねるコース」(水木しげる記念館)



▲巡検「日本遺産を訪ねるコース」(大山散策)



▲巡検「日本遺産を訪ねるコース」(大山集合写真)



▲巡検「日本遺産を訪ねるコース」(圓流院)

次回は兵庫大会で集おう

◇兵庫大会テーマ 「新しい時代に、今後の教育と我々の果たすべき役割について考える」

期日：2019年8月3日(土)～4日(日)

会場：姫路市商工会議所 (TEL：079-223-6550) 〒670-0932 兵庫県姫路市下寺町43